

3.4 要求支援ツール

RaQuest とは、スパークスシステムズ ジャパンが提供する、図3のような要求管理のためのツールで概要や詳細な情報を入力する事ができ、HTMLやWordドキュメントとして出力が可能である。また、入力された要求間の関係からインパクト分析やカバレッジ分析に役立つ関係図やマトリックス表示を行うこともできる。要求管理とは直接関係ないが、Enterprise Architect を使用する事でUMLのユースケースとしての生成や読み込みも可能である。今後、上記のツールや手法との差や共通点を研究していく予定である。



図3 要求定義ツールのイメージ

4. 解決策の具体例

4.1 コツ検索ツール

数多くのコツが存在している中、必要な情報を使用するのは困難であると思われる。よって、大量の既存のコツをまとめ、エクセルを使用し工程成果物の種類やジャンルなどでソートや検索が出来るようにした。今後の予定として、画面から条件入力をし、出力できるようにする予定である。現在作成中のプロトタイプは、機能要件の合意形成ガイドver.1.0に記載されているコツに関して纏めたものである。(図4)

使用箇所	ジャンル	目的	工程成果物	レベル	留意する点
システム撮る難い	言い切る/聞き切る	発注者が意図を正しく、言い切るには	-	仕掛け	テンプレート
システム撮る難い	言い切る/聞き切る	発注者が業務を正しく伝えるには	-	仕掛け	テンプレート
システム撮る難い	言い切る/聞き切る	運用管理や環境設定関連機能の考慮漏れを防ぐには	-	仕掛け	テンプレート
システム撮る難い	言い切る/聞き切る	他システムおよび社外から受けるあるいは、与える業務上の影響を評価するには	-	仕掛け	テンプレート
システム撮る難い	言い切る/聞き切る	業務の品質に重大な影響を与える事項を開発者に漏れなく伝達するには	-	仕掛け	テンプレート

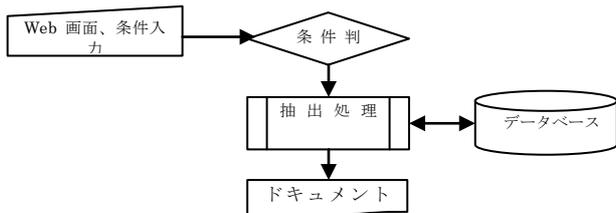


図4 コツ検索ツール

4.2 実務者へのアンケート

IT実務者に上記のようなツール、手法について実際に使用してもらい、アンケートを取ったところ、図5のような結果が返ってきた。

No.	アンケート内容	評価	コメント
1	ソフトウェア開発において仕様の変更や、範囲はありますか?	Yes: 1 No: 1	
2	要求仕様支援ツールの使い易さはどうでしたか?	5: 4 4: 3 3: 2 2: 1	どの点が使いやすい、または使いにくいかったですか? 使いやすい (or 良いと思う) ・ 記述する内容が明確になれば、この表を使って実現したいシステムが纏めることができると思う。 ・ 案件の対応内容の詳細がドキュメントとして残るので後からでも確認できる 使いにくい ・ それぞれのタイトルが無いので何を記述する欄なのか分かり難い。 ・ 目次がないので何がどこにあるのかわからない。 ・ システム開発でのフェーズ(新機能開発/保守等)によってテンプレートを変えたいと提案したものが出来ない気がする。
3	要求仕様支援ツールの使い易さについて教えてください。	5: 4 4: 3 3: 2 2: 1	
4	実際に業務で使えると思いますか?	5: 4 4: 3 3: 2 2: 1	どのように改善点があればいいとおもいますか? 実際の業務で、「工程成果物記入シート」を作成する工数が取れるかが疑問 一つのブックに色々な情報が載っているが(定義、処理フロー等)、それぞれ分欄毎に分けることで 案件別別冊に、対応内容を簡単に資料作り、お客さんに確認を取っている。
5	このようなツール、または手法を使用した事がありますか? ※ Yesの場合のみ5段階評価も記入	Yes: 1 No: 1 5: 4 4: 3 3: 2 2: 1	1の場合、そのツールと比べてどうでしたか? 別の場合、ではどのような手法で要求定義していますか?また、経験といった言葉について教えてください。 資料で確認を取っているため、大きな認識相違というものは起きていない。
6	このようなツールを使いたいとおもいますか?	Yes: 1 No: 1 5: 4 4: 3 3: 2 2: 1	なぜそう思いますか? ・ 認識の相違が減ることが考えられる。 ・ ドキュメントとして、一つ一つのシートが明確になれば、後の確認用としても使用できる。 「外資的社長の長短でこれらを作るのであれば、必要ない気がする...」 あとコツ検索ツール般的なものじゃなくそのプロジェクト内での手簡易的なものとかを見るのいいかも
7	全体的な評価	5: 4 4: 3 3: 2 2: 1	

図5 アンケート結果

- 利点として挙げられた項目
 - ・ 記述する内容が明確になっていれば、この表を使って実現したいシステムが纏めることができると思う。
 - ・ 案件の対応内容の詳細がドキュメントとして残るので後からの確認ができる。
- 要望として挙げられた項目
 - ・ システム開発のフェーズによって変更しないと、見合ったものにならない。
- 今後の改善計画
 - ・ タイトルの追加、もしくは細分化の必要あり
 - ・ フェーズ等の変更など、開発工程については要調査

5. まとめと今後の課題

本稿では、現状のソフトウェア開発の課題と先行研究の研究、そして実務者へのアンケートを行った。今後の課題として、今回のアンケートより得られた改善点を考慮し、ツールの共通点や改善点の研究を進めていく予定である。また、実務者のような経験者だけではなく、本学の学生にアンケートを取り、ソフトウェア開発の教育としての利用価値も検証予定である。

参考文献

- [1] 独立法人 情報処理推進機構, "ITプロジェクトの「見える化」", 日経BP社, (2008)
- [2] 独立行政法人 情報処理推進機構, "ソフトウェア開発データ白書 2010・2011", (2010)
- [3] 工藤 浩志, "ITコンサルタントのための要求開発入門", 技術評論社, (2009)
- [4] 独立法人 情報処理推進機構, "機能要件の合意形成ガイド ver.1.0", (2010)
- [5] スパークスシステムズ ジャパン, "RaQuest 機能ガイド 3.3" (2011)